

芸術研究科

修士課程	美術専攻	学位：修士（芸術）
------	------	-----------

■ 教育目標

これまでの美術領域における教育、及び作品制作を踏まえ、それぞれの系列における制作研究に加えて理論研究の研鑽を積み、独自の視点からその表現方法を構築し、独創性のある芸術作品の創造者の育成をめざすとともに、その専門知識や技術、研究成果をふまえて、倉敷はもとより中四国、学生の出身地域において芸術文化の普及やその質の向上に貢献出来る人材の育成、さらに映像系列においては、その関連業界において活躍出来る人材の育成を行う。その為に、本専攻では学内の研究だけに専念することなく、各種コンクールへの応募、展覧会や個展での作品発表、芸術文化イベントへの参加を行う等、芸術の社会貢献における意義の実践を通じた考察を行うとともに、系列を横断する研究を行い、広く芸術領域の造詣を深める教育を行う。

■ ディプロマポリシー（学位授与の方針）

美術専攻において学位の取得にあたっては、芸術的感性によって直観力を高め、社会から遊離することなく、知識や経験に基づいた論理的判断をくだせる力を養うことが必要である。それらの成果は美術作品の制作を通じて反映される。社会的に受け入れられ、共鳴を得る制作を第一の基準として評価する。

1. 絵画・彫刻・工芸・映像・デザインの領域で専門的な基礎知識を体系的に身につける。
2. それらの専門知識を、制作を通して目に見えるかたちにあらわす。
3. 制作の成果をまとめ、展示や報告書で発表し、社会の評価を受ける。

■ カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）

カリキュラムは制作と理論の2つの領域を過不足なく履修するよう編成されている。制作に関しては課題をこなす対応能力と、自主制作を重視する創造力を各領域の性格に応じてバランスをとりながら運用している。研究成果としての修了制作は報告書を含めて判定されるが、それぞれ修了制作展と研究報告会を開催し、公的に評価される。

■ アドミッションポリシー（入学者受け入れ方針）

大学院設置基準第3条第1項にあるように、「修士課程は、広い視野に立って精深な学識」を求めることが要求されるが、本専攻では専門分野を深めるだけではなく、専門性を異にする研究仲間が身近にいるという環境を生かして、広い美術分野全般に広い関心をもつ人材を求めている。

1. 美術全般に広い興味をもつこと。
2. 独創的な発想のできる能力。
3. 研究仲間と協調して研究を進めていく姿勢。
4. 社会的意識を失わずに専門性を追求する意志。

芸術研究科

博士（後期）課程

芸術制作表現専攻

学位：博士（芸術）

■ 教育目標

大学院修士課程を修了し専門領域において高度な表現能力を有する学生、また芸術領域で活躍する社会人において、修士課程における教育を継続しながら、さらに高度な制作研究を積み重ねてその領域を極める。あわせて、倉敷における近代の文化的背景も視野に入れつつ、芸術領域から哲学や科学等含めた幅広い学際的造詣を深め、自己の表現を踏まえた理論研究にも重点を置き、芸術に対して自立した表現者としての自覚を元に、地域における芸術文化の中核を担い、その活動が今日の芸術活動に少なからず貢献することができる専門家の育成を目指す。

■ ディプロマポリシー（学位授与の方針）

本専攻においては、自立した表現者としての誇りと社会に向けての積極的な問いかけを通じて、地域における芸術文化の中核をなし、加えて国際的な競争力を身につける。さらには領域を横断して、広い範囲の芸術分野に発信していくことのできる知性と感性を備えた人格を、制作と論文の作成を通して実現する。

1. 絵画・彫刻・工芸の各分野の専門的知識を、国際的レベルに至るまで深く探究する。
2. 他領域の専門を自己の分野に取り込んで、独創的な個人様式を確立する。
3. 研究成果を、個展をはじめ公的な発表を通じて、社会に問いかける。

■ カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）

カリキュラムは各学生の専門領域の「制作表現研究」を中心に編成されている。これに「芸術理論総合研究」と「領域横断特別研究」という科目を加えて、広い視野をもつことで孤立することなく、つねに社会性に根ざした表現活動を推奨するシステムをつくり出している。研究成果は各学年での公的な中間報告会を経て、美術館での修了制作展で発表される。

■ アドミッションポリシー（入学者受け入れ方針）

大学院設置基準第4条第1項にあるように、博士（後期）課程の目的として「専攻分野について、研究者として自立して研究活動」を行なうことをめざしている。修士課程で専門分野の基礎が備わり一定の評価を得たものが、さらに高度な専門性をもって、自己のスタイルを確立できるような、次の人材を求めている。

1. 自分の専門領域について十分な知識を持ち成果をあげていること。
2. 他の領域にも関心を持ち、孤立することなく、社会に問題を投げかけていく姿勢をもっていること。
3. 制作だけでなく理論的な探究もすすめて、自身のゆるぎない制作理論を確立しようとする意欲があること。

産業科学技術研究科

修士課程

機能物質化学専攻

学位：修士（産業科学技術）

■ 教育目標

化学、生物学、医科学等の専門分野の学際領域を視野に入れた教育と研究を行い、柔軟な探究精神と統合的視野をもって物事を判断し得る能力を備えた人材の養成を目標とする。

■ ディプロマポリシー（学位授与の方針）

1. 機能分子化学系または分子細胞病理学系において、化学またはバイオサイエンス、細胞病理学に関する基礎的な専門知識、研究能力を体系的に身につける。
2. 各専門領域において基盤理論および一般的実験手法、研究組立手法を理解し、論文作成のための研究の方針・方法を身につける。
3. 実験方法や結果を教員や他の学生と議論しながら研究を遂行できる。
4. 実験結果を整理し、論文、レポートとしてまとめ、発表することができる。

■ カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）

カリキュラムは2系列からなっている。学外の専門家による特別講義、各系全教員によるゼミナール、特別研究で構成されている。所属する系を中心とした講義科目を受講するとともに特別研究を行うことにより、体系化された専門知識、実験手法を修得し、必要な情報を収集、整理活用することができるように配慮している。研究結果や個々の考えを要領よく発表し、論理的に応答する訓練の場として、半期ごとの発表会を行なっている。

■ アドミッションポリシー（入学者受け入れ方針）

本専攻は、実験、実践経験をとおして研究遂行方法を体得し、結果を論理的かつ簡単明瞭にまとめ、発表できる能力を涵養することが主題である。従って、実験が好きで、個別の領域を越えてチャレンジできる人材を求める。

1. 明るく協調性に富む人物。
2. 知的好奇心の旺盛な人物。
3. 目的意識の明確な人物。
4. 実験、研究に粘り強く取り組める人物。

産業科学技術研究科

博士（後期）課程

機能物質化学専攻

学位：博士（工学）

■ 教育目標

専門分野に関する研鑽をさらに積ませるとともに、他の関連する研究領域での諸問題をも視野に入れた新たな研究課題を見出し、体得した専門知識を十二分に活用して研究・開発できる人材の養成を目的とする。

■ ディプロマポリシー（学位授与の方針）

1. 各系で高度な専門的知識、研究能力を体系的に身につける。
2. 高度な情報入手能力に基づき、独力で必要な情報を収集し、整理することができる。
3. 研究結果や自分の考えをわかりやすくまとめ、書面や口頭により論理的に発表し議論することができる。

■ カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）

2系列からなっている。ゼミナールと特別研究で構成されている。所属する系での特別研究を通して、思考、解析、解決案提起、実験手法提起の諸能力向上を目指して指導される。研究結果や個々の思考解析過程、解決案、実験手法を要領よく発表し、論理的に応答する訓練の場として、半期ごとの発表会を行なっている。

■ アドミッションポリシー（入学受入れ方針）

本専攻では機能物質化学、バイオテクノロジー、細胞病理学の幅広い素養と専門的知識を持った人材の輩出を行なっている。学位を授与するに当たり、節操ある生命・科学倫理観と自然摂理に対する深い尊崇の念をもつことを求める。

・学んでおいて欲しいこと

1. 十分な実験的知識と工夫能力。
2. 専門論文を十分に理解する外国語能力。
3. 情報収集能力。
4. 発表能力。

人間文化研究科

修士課程	人間文化専攻	学位：修士（学術）
------	--------	-----------

■ 教育目標

人間文化研究科では、社会科学系、健康・環境科学系の2系列から成っており、現代社会が直面する、教育・文化・政治・生活環境・健康生活等に関する様々な問題点を、個別の学問領域を超えた学際的な立場に立って解決できる人材の育成を目指す。

■ ディプロマポリシー（学位授与の方針）

大学院修了者には、高度な専門知識・技能に加え、学際的な幅広い知識、創造力、問題解決能力等が求められる。本専攻では、以下のような学位授与方針のもと、修了要件を満たした者に修士（学術）の学位を授与する。

1. 教育、文化、政治、経済、健康、スポーツ、生活環境、比較動物の各分野から、専攻する分野の高度な専門知識・技能を身につける。
2. 研究成果や自分の考えを、口頭や論文でわかりやすく論理的に発表し討議することができる。
3. 学際的な視点に立って、問題点を整理し、問題解決へのアプローチができる。

■ カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）

学位授与方針に掲げる人材を養成するために、コースワークとリサーチワークを適切に組み合わせた教育課程を編成する。また、研究指導計画に基づいて、学生の能力を最大限に引き出すことのできるきめ細かな学位論文作成指導を行う。

1. コースワークでは、各系列に配置された科目の履修により専門的知識・技能を修得するための教育課程を編成する。
2. リサーチワークでは、特別研究により学位論文作成指導を行い、研究成果の取りまとめ方や効果的な発表方法などを含めた研究能力を向上させる。
3. 専攻する分野の系列に加えて、他系列の科目あるいは関連科目を受講することにより、複合的・学際的な視点に立って、現代社会が直面する諸問題に柔軟に対応できる人材を養成する。

■ アドミッションポリシー（入学者受け入れ方針）

教育、文化、政治、経済、健康、スポーツ、生活環境、比較動物の各分野から、志望する分野の基礎的な専門知識と研究能力を身につけ、個別の学問領域を越えた学際的な視点に立って、現代社会が直面する諸問題の解決にチャレンジできる以下のような人物を求めている。

1. 志望する研究分野に対する基礎的な専門知識・技能と明確な目的意識を有する人物。
2. 研究を進めるために必要な論理的思考能力や文章作成能力などの諸能力を有する人物。
3. 旺盛な知的探究心をもって積極的に課題に取り組むことのできる人物。